平新報

發行日毎月三回五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回五十錢 場所指定倍增
一部定價金十錢送料五厘

春先！流感猖獗！
劇場出入と夜更し
殊に小供に大禁物

活動寫眞觀は農村は別として市街地その附帶農村を通じて民衆的娯樂として認められ、それが弊害等については今や社會問題として論じられて居る、殊に思春期時代の青少年に對しては害あつても益なきものと識者から批難さるゝ程現在の活動映畫は醜悪なものが多いとの批難の聲が高い勿論、活寫そのものが娯樂趣味を第一として敎育方面を疎にしつゝあるは事實らしく

檢閲の際あまり其筋では默過するものゝ如くである、學童等に最も影響するは活寫である樣だ、小供は何でも眞似から育ちつゝあるのであるから何も活寫とのみは申さぬが近來、劒劇の眞似して片目となつてたり生れもつかぬ不具者を出しつゝある樣である、娯樂と營業者から申せば風俗を害する等は眼中に置かぬかも知れぬが大人は兎に角**少年學生**には近頃平附近で上映する寫眞は見すべきものでないと思ふ、平では學生デーを設けて土、日の晝間に演つて居る樣であるがそれとても普通のと代へる理でなく大人に觀せるものと同じである、娯樂から申せば生徒兒童小供諸君は活寫觀を唯一の樂しみとして居る樣であるから無理ならぬとして今少し學生デーに上映するものを何とか出來得ぬであらうか、某國では**未成年者**には觀せぬとの規則を設けて習く由であるが活動からうくる惡影響は彼等未成年者に對してどうであらうか、學校で如何に倫理風敎を説くもそれは反つて活動の方の感化が多い事は事實であるからして何とか改良すべきである去る年『籠の鳥』の映寫を學生に禁じた事があつた、現在のものは『かごの鳥』以上である、檢査官も時代に順應して魔離したと言へば言へ得るが實に甚しいのがある、勿論作者の人格にあるのであるが西洋劇には**風俗を亂す**如きものは尠い樣である、到底親子兄弟一所に觀得ぬものがある、さらば小説講談等も讀んではならぬとなるかも知れぬが影響する所は活寫の方が多い、此際現在活動館に出入する學生の風氣等について論議はせぬが父兄學校當局が甚だ無關心過ぎはせぬかと思ふ、學童の試驗勉强の弊害を除くための試驗全廢等があるがそれよりも活寫觀の方が試驗勉强より**兒童体力**に及ぼすの甚大ではなからうか、活寫からうける感化を知つて他人の事の如く無關心で居る實地研究見聞せぬ樣である時遇監督らしき先生が見えて居る事もあるが稀れである、時！春氣發動季に當り活寫よりうけての…眞似から……の犯罪と迄行かぬまでも家出人、男女の猥行爲が擡頭し來つゝあり、警察當局は勿論、一般家庭學校等は十二分に活寫に對して留意して欲しく加ひて**惡性感冒**の流行の際不衛生的な集合所、夜更く迄なす觀劇等は小供達にさせせぬが良からう事は未然に防ぐ以つて賢なるものであると

『某醫師談』

逐鹿戰直後
暗を縫ふて東京へ
磐中同窓を訪ねて
藤田孤峰

去月廿三日夜の急行で公私を乘ねて上京した汽車は出でゝ行く煙は殘ると云ふ歌の文句其のまゝ汽笛一聲深夜の闇を破つて南へ南へと進行して行く……乘客は旅の疲れに眠りを續けて居る乘客の中には俗に云ふ御上りさんや職を求めて上京する勞働者田舍の正月で歸省して歸る女工さん達官吏商人職人千差萬別の人々は樂しき春の夢を結んで居る…暫らく睡魔の奴となるうちがやがや騷々しいので、目覺めると通學の男女生が詰めかけて動く事も出來無い無い有樣日暮里あたりから大混雜此處は何處やら分らどうやら乘客も減つて乘つたあのまゝで二時間も走られたら人間のたくわんやら鑵詰が出來上つたかも知れない、朝まだき八時三十五分上野着深川へ向ふ……市內目抜き日本橋小傳馬町あたりの兩側は堺と云はず、のきば電柱はポスター責め過ぎし衆議戰の如何に激しかつたかを如實に物語つて居る、只だ哀れに見えたは民政黨の陣笠高木盆太郎氏と戰つて破れた本縣出身の近藤達兒君（政友會）のポスターが悲しげに露風に打たれて敗殘の哀れさをしのばせる、深川千田町の知人宅を宿泊所と定め、午後麻布區富士見町に先づ

荒川精一氏を訪ふ、氏は磐中十回平久保町出身且つては仙臺歩兵廿九聯隊付歩兵中尉として前途ある青年將校であつたが途中志を替へて南洋に、も亘り次いで政界へ乘り出し今は政友會の院外團の牛耳を取つて居る、過ぎし衆議戰には本縣三區より中立として立候補する所だつたが義に强い氏は同志の爲を思ひ立候補を斷念し、政友會公認現代議士木村清治氏の爲め應援した義俠に富める人格者である、氏に面會して約三時間、七時府下高圓寺に

佐藤 績氏（磐中十六回澤渡村出身）を訪問。翌廿四日は市外田端大東製藥所長

新妻喜男氏（四倉町出身磐中十八回四倉電氣社長新妻盛氏長男）氏は東京藥學專門學校卒業後永らく內務省衛生試驗所に於て專心研究して現在の製藥所を起した努力家である、父君に似て温堅篤實な人である又氏は陸軍三等藥劑官であると、氏宅を午後一時辭し有樂町東京市衛生試驗所に

酒井菊雄氏を訪ふ、氏は磐中十二回出身醫學博士にして同所の技師長の要職に有り、氏に別れて市外大崎星製藥會社に

鷲 清章氏（磐中十六回錦村出身）を訪れた職務の多忙の中をいとわず記者の面會を心善く應じて吳れた

松本昌光氏は不在次に上大崎鐵道官舍に

長瀨元治郎氏（磐中十六回平町出身）を訪れたがこれ又不在因みに氏は目下東京鐵道局技師品川電力區主任で東大出の工學士である。二十六日午後三時三十五分上野發歸社

磐 同窓新報 （十四）

卒業生を出す廿八回
貳千貳百八拾七人

平町磐城中學校第二十八回卒業生『本年三月』は左記の通り百五十六名を出して去る七日伊東知事臨席の下に卒業式を擧行されたが第一回より第二十七回迄の卒業生總數累計貳千百參拾壹人合せて貳千貳百八十七人の卒業生を出した事になりうち約一割の死亡者と見て約二千の同窓は社會各班に活動し活躍せんとして居る、本年の同窓生中觀るに木村榮君の如きは同姓同名二人あり草野順平氏の長子も見ね親子で同窓會員になつた理である。

第二十八回卒業生　イロハ順

猪狩 四郎　猪狩庄一郎
伊藤 東一　石川 二郎
石堂 輝雄　市井 茂
石坂 恒雄　箱崎 永吉
箱崎 喜敎　箱崎 新平
箱崎 登　林 孜
花園 徹　塙 操
花澤 武夫　西山 榮
西山 熙　西山 直治
星 貞吉　星 正一
遂來 信男　富岡 堅
大平 重夫　大森 輝
大角 憲顯　岡田 修一
岡田 隆廣　岡崎 英一
小高 舒明　荻野 定夫
小澤 信　渡邊 彌平
渡邊 武雄　渡邊 豐
加藤 誠藏　片寄 正義
風間 泰介　門井 眞澄
川副 正雄　柏原 信一
吉田 武　吉田 豐
吉田 四郎　四倉 久朝
高岡 文夫　高野 正男
高萩 七郎　田中 貞
橘 五郎　高田 彌內
瀧上 一男　園部 雅美
根本 弘　中野 喜一
中田 肇　仲田 正
永野 孝夫　永山 忠泰
永久保 貞　村山 林一
村田 竹代　村上喜八郎
宇佐神正康　江尻 武
江尻 保　草野 良一
草野 光司　鯨岡 琨城
鯨岡 英俊　櫛田幸三郎
黑木 房平　黑澤 章
國安 靜行　栗山 樹人
山野邊忠雄　安永 安成
矢部 定一　山崎 修三
松本 達美　松本 孝一
馬目 醸　松浦 誠
益子 堅　馬上 武義
松井不二男　松長 格
藤井 正信　深谷 丈助
小林 清海　小林 智清
小室 西松　兒玉 光誠
後藤 晃雄　古田部一男
小齋 一郎　荒川 滿
荒川來四郎　芦間 直輝
淺井 義治　雨貝 正直
麻原 作衛　會田 源一
齋藤 賴母　齋藤 正一
佐藤菫一郎　佐藤 剛
鷲 和夫　佐竹 貞得
三本杉 保　澤 赳
佐波古直英　坂田 千平
笹井 精二　酒井 忍
三戸隆之助　木田 清
木田 正夫　木田 武男
木田 芳重　木村 榮
淸見 西男　木澤 一郎
木村 榮　桐生 道雄
志賀 重慶　志賀 重郎
柴田 兵部　島 忠市
柴崎 茂八　蛭田 四郎
蛭田 睦平　蛭田 正義
平澤 二郎　平澤 勝男
弘中 一雄　門馬 忠男
關口 純　一淸洋一郎
鈴木 邦與　鈴木新右衛門
鈴木 直　鈴木 巖
鈴木竹次郎　鈴木榮一郎
鈴木 淸隆　鈴木 榮治
鈴木 充雄　鈴木 芳敎
鈴木 榮一　鈴木 隆枝
鈴木 壽丸　鈴木 武雄
鈴木 信道　助川 一夫
菅波 勝三　菅原 勉

以上一五六名因みに表彰されしもの左の如く

▲學業操行優良生徒（一名）
鈴木 信道

▲在學五ヶ年間正副組長勤續
中野 喜一

▲在學五ヶ年間精勤生徒（十六名）
松本 孝一　石坂 恒雄
市井 茂　菅波 勝三
西山 榮　淺井 義治
川副 正夫　小林 清海
仲田 正　鈴木 清隆
吉田 武　鈴木 充雄
蛭田 政義　加藤 誠藏
高萩 七郎　柏原 信一

▲本學年間精勤生徒（七名）
草野 良一　江尻 武
渡邊 彌平　矢部 定一
桐生 道雄　渡邊 武雄
平澤 勝男

磐城湯本
溫泉旅館
松柏館
電話五番

入學案內

▲募集人員
本科第一部（從來ノ高等女學部ト畧同シ）二年卒業 五十名
本科第二部（從來ノ師範部ト畧同シ）二年卒業 五十名
技藝高等科（從來ノ技藝部高等科ト畧同シ）二年卒業 五十名
技藝速成科（從來ノ技藝部速成科ト畧同シ）一年卒業 五十名

▲學則改正　本校ハ從來縣知事ノ認可ニヨリ經營シ來リタレドモ時勢ノ進運ニ伴ヒ文部大臣ノ認可ヲ得ベク目下申請中ニ付キ近日中認可ノ見込

▲本校ノ特色　本校ハ實業學校令及ビ職業學校規程ニ基キ女子ノ淑德ヲ涵養シ裁縫其他女子ニ須要ナル實際的學識技藝ヲ授クルヲ以テ目的トシ併セテ敎員タラントスルモノヽ爲メニ之レガ養成ヲナス

▲卒業生ノ特典　本校本科ノ卒業生ハ高等女學校ト同ジク官立專門學校ニ入學スル資格ヲ得ラル、見込

▲入學資格　一、高等小學校卒業者又ハ本年三月卒業見込ノモノ　二、又ハ同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

▲出願手續　入學願書履歷書ニ入學料ヲ添ヘ本校ニ提出ノコト　但シ入學料二圓

▲出願期日　三月三十一日學則並入學願書履歷書用紙ハ郵劵二錢ヲ添ヘ本校ニ請求セラレタシ

▲寄宿舍　通學困難ノ者ハ成ルベク入舍スルヲ宜シトス食費ハ一日二十五錢內外

文部大臣認可申請中
平町搔槌小路
平陽女學校
電話四四五番

又も魁!!
◆松竹スター好み
セール陳列會　三月十五日ヨリ
◆春衣荷揃
格安品澤山あります
◆春セル
小柄七圓五十錢より
中柄九圓より
平町三丁目
中野呉服店
電話六十七番
店員募集　十三歳より十六歳迄　五名

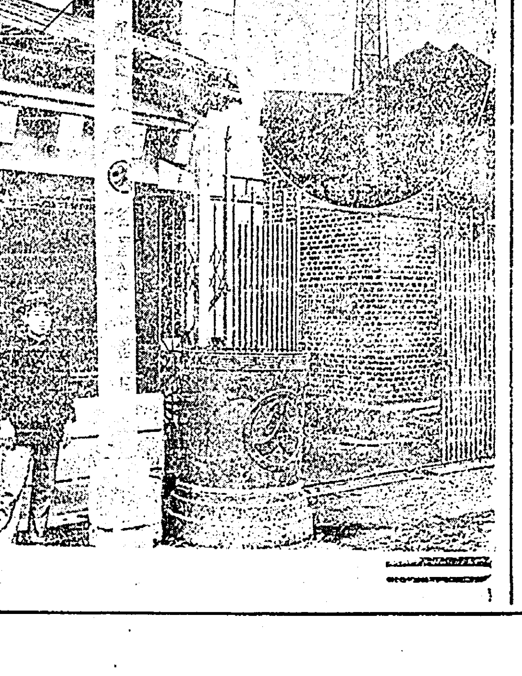
お坊ちゃんの……
御入學の洋服は
ドウゾなかやの洋服を
新入學用洋服賣出し
黑小倉　二圓貳十錢
紺サージ　四圓貳十錢
紺ヘル　五圓貳十錢
(大) なかや洋服店
平町二丁目
電話二〇三番

X光線科
[illegible]醫院
平町南町　電話一二九番

高久病院
平町田町
電話五一三番

森合齒科醫院
植田町
小[illegible]町
森合芳男

朝日煙突
御存知でせう？
サビナイ
ヤケナイ
クサラナイ
石綿セメントン製



耐水!!!耐火!!!美麗!!!廉價!!!
(久) 釜屋商店
平町五丁目
電話九三九番

佐[illegible]醫院
平町四丁目
電話五〇八番

內科小兒科皮膚科
藤[illegible]醫院
入院應需
平町紺屋町
電話五〇七番

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目
電話長三番

日本石油株式會社特約店
平町二丁目
清關內油店
關內正一
電話長十六番
營業科目
內外機械油
發動機用油
色油類各種
度量衡器
カーバイト
コールタール
石油乳劑
郡山支店開設
郡山市驛前 關內油店
支店 茨城縣多賀郡關本驛前
油槽所 電話平潟三十七番

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目
關內藥舖
藥劑師 關內榮助
電話四〇番

平和削節製造發賣元
海陸物産問屋
常磐線湯本驛前（磐城屋號）
(M) 鈴木道太郎商店
（振替東京六一二〇一番）
◎最上の鷄餌（魚粉）

試驗地獄去つて考查地獄
縣下各中學校入學志望減じたるも
入學難は從前の通り
殊に石城地方は志望者過剩
平に私立中學新設の聲

試驗地獄が去つて新制度に則る入學選拔考查は後旬日に迫つた平町在磐中磐女の兩縣立學校も去る拾日を以つて願書を締切つたが入學難は相變らず緩和されてない、即ち磐城中學校は二百五十名の募集人員に五百四十五名で二倍强であり、磐城女學校は二百名の募集人員に志願者は四百九十名があつてこれ又二倍半であるこれを昨年の志願者五百八拾三に比ぶれば磐中は三十八名減じ磐女は昨年の志願者五百二十六名より三十六名減じて居るが磐中へ志望者二百九十五名、磐女へ志望者二百九十名合せて五百八十五名といふ小さい男女と『石城郡』それに連なる父兄達の不滿と落膽が必然來るのである、兎に角石城郡地方はどうしても募集人員に比して志望者が他所より比して多く女子の方は私立女學校があるから多少救濟されるとしても男生は商業學校佑賢學舍位のもので地方人は此際私立にても可なるべく今一校中學校を平町に新設してこの可憐なる向學の少年達を就學せしめねばなるまい、兎に角入學選拔考查日は磐中は來る二十七日であるがこの考查が問題である、試驗の上なら落第せりとも當人は勿論父兄達も不滿はあるまいが考查となつては落第せるものはあきらめがつくまい、こゝに新制度の不自然がありはせぬか、試險地獄と申せど、やはり人生、競爭あり試驗があつた方が當を得て居るとの聲が多い樣である要するに平の有志はこの期を以つて私立中學の新設をなすべきである、水戸は故飯村翁の努力に依つて、茨城中學開校のため大分入學難が免れて居る由である、今左に本縣各縣立學校の志望者を昨年と比べて掲ぐるが募集人員に充たぬ地方もある樣である。

◇中學校

學校名	募集人員	本年志願	昨年志願
安積	二〇〇	二三三	二五六
磐城	二五〇	五四五	五八三
福島	一五〇	二一五	二四〇
相馬	一五〇	二〇〇	二六一
會津	二〇〇	二七〇	四〇一
喜多方	一〇〇	一四一	一五二
保原	一〇〇	八二	一三〇
白河	一〇〇	一四四	一六五
安達	一〇〇	一三〇	一六八
田村	一〇〇	八〇	一〇七
双葉	一〇〇	一八〇	二三四
◇高等女學校			
福島	二〇〇	三二一	三五三
會津	二〇〇	三九〇	四八〇
磐城	二〇〇	四九〇	五二六
安積	一五〇	二五〇	二五一
相馬	一五〇	二三六	二三六
白河	一〇〇	一四六	一五六
◇實業學校			
福商	一〇〇	一五四	一九九

選擧根基

湯本町　小野生

選擧は其の根本を忘れると選擧でない衆議員の選擧は國政を、縣議は縣下の事を議すので衆議員を選擧するには國政を論ずるに可否の人格を選むのであるから俺が村からだとか町からだとか云ふ樣な考い違いの無法者があつたら國体を危くするのである俺が町村から出るから誰に勝したいなぞと云ふことを時々耳にするが誠に不屆千萬な話である、第一俺が町村からと云ふと自分の町村以外に國がないことになる、俺が縁者だとか云ふは自分より以外國民がなくして居り、御上陛下の御旨志に反する不敬罪である、第二は以上の言は其の候補者を侮辱することである俺の町村からと云ふ言葉の意義を能く考いたらお前さんには其器にあらざる者と云ふ事になる、即ち仕方ないけれ共と云はんばかりの言葉になる如斯一票は難在ない其人の腦裏を知つてか知らんでかテンで物にして居らぬと云ふ內にある一票で如斯人の一票は國を危くし其人を侮辱し眞正の選擧と云ふ選擧の意義を解せぬ亡者であるから能く考い直すがよい、淸き一票は其人を助け眞の一票は國を擁護する國政を建つるのである。

六候補が三旬の衆議戰に
濱三郡に落した運動費
其筋への屆けの分を
合するご二萬九千余圓也

過般三旬の衆議戰に六候補が濱三郡に落した運動費は其筋へ屆出られた精算高は左の如くで合せて二萬九千二百六十四圓七十四錢也といふ

第三區『法定額九千四百二十六圓八十錢』

▲松本	六、九六三、三二〇
▲氏家	五、六一〇、一五〇
▲木村	五、五四六、三五〇
▲比佐	四、五九八、八七〇
▲山田	三、八四四、四五〇
▲佐川	二、七〇一、七〇〇

事業と人物（十）

新裝成れる
合津醫院

平町仲田町に廣大な新築をなして患者に好感を與へつゝあるは以前大田町に居つた耳鼻咽喉專門として令名ある合津醫院である、從前の通り新醫院裏に病室を設け御內室を相手にかざり氣なく小供にも大人にも同じく接し治療は安く迅速堅實なる點に於て氏の治療をうけし人々が如實に語る所に於て氏の醫術の眞價が表はれて居る、氏は磐中第一回卒業生にしてなか／＼の酒豪あの偉大なる体格にて名論卓說を吐く際は大西鄕を偲ばしむる、實に男性的な愉快な人である、氏の氣質を知らぬで新聞記者が訪問するならば大喝一聲おごしつけられ棍棒の樣な右腕をふり上げられる、否なふり上げられて放々の体で退いた記者諸君もあると聞いて居るそれ程淡的な茶氣橫溢の人である、氏平刀圭界に潜在的の勢力を有し一貫新病院を建つ偉なるかな

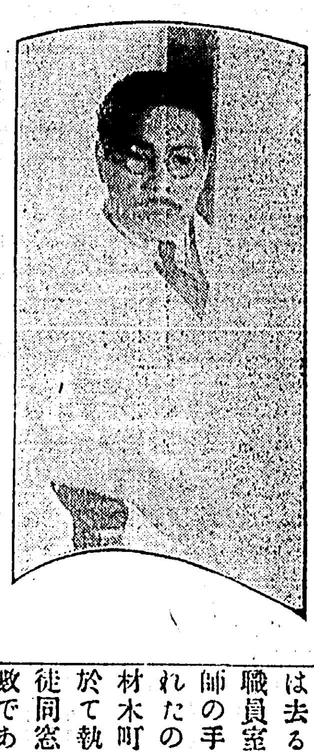
不動澤炭礦長
高階一郎氏

不動澤炭礦所長高階一郎氏は品川白煉瓦株式會社赤井工業所長として就職來りしが都合により辭し居宅は赤井村に在り公職として村會議員の席に有る事數回、幾多の事業に關係しつゝあり石城の事業家として忘れてはならぬ人で今後の活躍こそ期待されて居る。

土木建築請負
常磐工業社

田人村小野庄一氏を專務として平町居住加藤新氏を常務とする植田町の常磐工業株式會社は資本金四拾萬圓拾萬圓拂込みで大正九年九月の創立、出張所を東京市淺草區に置き土木、建築方面引いて設計等を扱つて居る石城地方經濟界の樞要は大半政友會の手に握られ居るに介在して政黨に民政に席を置く小野、加藤兩氏が今日迄の發展を來したる事は加藤常務の並大体ならぬ苦鬪の腕の冴えを思はしめる然し政友會の事業家多き故に反つて仕事があるのかも知れぬ。

植田町
片岡醫院


植田町　片岡醫院長　片岡　章氏

植田町片岡醫院長片岡章氏は眼科、耳鼻、外科、咽喉科、小兒科等の專門醫のなき植田町地方としてあらゆる診療をなし、氏の熟心と親切町噂は地方患者の信望を集め益々仁術を天職に向つて邁進しつゝある、氏は常に研學怠りなく時折上京して時勢に適應すべく技術を磨く所に氏の努力が表はれる。

氏は明治二十五年三月五日生れ當年三十七才、出身は茨城縣、大正九年慈惠醫專卒業植田開業は大正十二年である。

語耳目

民政黨が議會中心の政治を唱導すれば夫に對抗し鈴木內相が皇室中心を强調して居る、前者は內相を指して憲政の賊なりごし、內相は我國体に合はざる民主共產の惡思想なりと罵つて居る、同じく帝國臣民誰か烏のメス、オスを知る、

× ×

近頃平町に結核病者の多いは其筋の檢病調查が如實に物言ふて居るとの事殊にこの病者に對する施設としては豐間に回春園あるのみでそれも貧乏では行かれぬ所此の際この病人を全く離隔して其の病根を斷つ樣にするが急務中の急務である、この設備が尠いとは文明國としての一大恥辱である、國に金がないとせば富豪達がチト寄附する事だ、体育獎勵も良い然しこの薄倖な病人を救ふ事が先決問題ではあるまいか、赤痢や、コレラの如く急に傳染せぬからとして等閑に附したらごうなり行くであらう、

× ×

多年犧牲者まで出して騷いだ大瀧發電所問題も伊東知事等の奔走に依つて解決せる如くである、今度は第三小學校の敷地問題！市制準備を控へての大平町建設のため、愛町心から出づる論議は何人もその勞奔に感謝する、時陽春のシーズンすべて過去の惡水は水に流して談笑のうちにそれが最善の策を講じて貰ひたい。『眞立』

櫻咲く平の眞の當り
闇に働く解語の花二百
新裝は鳳、櫻の模樣ちらし

櫻花で有名なる平にものいふ花！闇に咲く花は何人居るか、左は一月末現在の統計であるから櫻時には約一割の增加は例年に比してあるものと見て良い、處でカフェーの女給は夏になると增し、冬は半分にも充たぬ程減つて居る、兎に角これ等の闇の職業婦人が異性を相手に平の夜を賑はし、さてはジュンな家庭に波紋を生せしめ、犯罪の根源ともなり經濟界も動かして居るのだから滿更馬鹿に出來得ぬ現象である、犯罪の裏に酒と女ありとある統計學者の宣託であるが、さすると罪は男のみならずか、然らず犯罪の裏に酒と色とありと申したい

◆藝妓置屋二十一軒、內休看板一件、本玉百拾六人、半玉九人合せて百二十五人

◆酌婦飲食店三十七軒內員數酌婦七十三人、水仕四十人合せて百拾三人

◆貸座敷六軒、內娼妓五十八人、貸座敷中藝妓二八人半玉なし

◆西洋料理二十軒內女給拾五人で女給の置かぬうちもあると見られる

右の如き暗に働く女性を中心に貸座敷には仲居、料理店に女中といふのがこには移動が甚しいが約百三十人居ると見てこれ等が酒！色！肉！媚それからそれへ……と金錢の取引をなして居るのであるからこれもやはり物品ならざる商ひをなしつゝ夜の平街を色彩りつゝあるのである、時は萬象開動して罪の根差しもこの春より……葉落ちて赤湯の風も下火となり花咲き青葉繁げらんごす、この人々等は御大典と櫻花期にちなんで櫻花と鳳『目出度を意味すらん』この模樣の衣替ひをして平に客を引き賑はすといふ定めし今年の櫻花期の平は思ひやらる

平窪村及び平町に
眞性天然痘發生
傳染系統は東京よりか
蔓延の兆あり警戒を要す

本郡平窪村大字幕之內農太田德男、長女みち（十七）は去る十日同次女きね（一〇）は十二日三女とみ（三ッ）は八日に一家三名、隣家の鈴木惣吉（四八）は九日同人妻きよ（三六）は十日同じく同村矢吹ふゑ（一八）は十日以上六名いづれも相前後して發病したので若松醫院の診療を受けた處天然痘の疑ひあつたので十三日平警察署に申告し平細菌檢查所弓田衛生技師が檢診の結果午後に至り眞性天然痘と確定し即刻平窪隔離病舍に收容し傳染系統調查中であるがみちの祖父太田丑藏が去る二月二十七日死亡したが其の死亡に付て不明であり甚だしく疑問の點もあり翌二十八日の葬儀の際には多數の會葬者があつたのでこの方面にも蔓延してゐるらしくあるひは東京方面からではないかと云はれて居り同村に接せる平町では警察署と共に大いに狼狽し戶口的檢病調查を行ひ豫防法を講ずる處置に種苗を取よせて徹底的に種痘を勵行すべく準備手配に大繁忙を極めて居る折りから又平町五丁目染物業馬目政治（三六）も十三日午後天然半眞症痘と決定したので附近は大恐惶を來して居る

豫防法は
種痘あるのみ

天然痘豫防について平町某醫師は左の如く語る

『誠に突然なので驚へて居る此の病菌は空氣傳染もするから外出には必ずマスクをかけ歸宅したらうがひをするがよい種痘は小供は大底施行して居るが免疫は五年故この際十五歲以上は必ず種痘した方が安全である

保菌者多く
患者續發
種痘施行
平では十五日より

平窪村に發生した天然痘患家太田德男は聞く所に依ると同地方の有力者との事で葬儀には郡內外會葬者多く東京よりも多數會葬者あり平町其他の患者も會葬者であり保菌者數限りなき模樣其筋では豫防と撲滅策に腐心しつゝあるが平町では本拾五日より一齋町內居住者に種痘中、其後の別項報道六名の外平窪村に左の二名續發！草野村にも平窪村の眞性患者『葬儀に會葬せるもの』二名發病せりといふ

▲平窪村字寺內四二折之內長榮（二ッ）同四三折之內長明（三九）

平に又一名
白銀の橫山氏
眞性ご決定

平町白銀町河北新報平支局長橫山顯氏は罹病中本拾五日午後眞性と決定隔離さる尙患者續發の畏れあり一般に大恐怖を來し平町當局、平警察署は大狼狽は極めて居る。

得難き學究教育家
中根松次郎氏逝く
磐中に廿一ヶ年勤續

磐中敎諭囑託中根松次郎氏は去る七日午前八時半同校職員室にて腦溢血のため醫師の手當の追もなく永眠されたので九日午後二時平町材木町の自宅出棺明覺寺に於て執行したが磐中全校生徒同窓會員其他の會葬者多數であつたと

因みに氏は愛知縣出身にして東京物理學校を卒へ物理科檢定試驗に合格し明治四十一年十一月磐中敎諭となり大正十四年依願退職引續き囑託となり二十一ヶ年間の永き間敎學敎師として終始され職員生徒間に氣うけ良く得難き學究的の溫良の敎育家であり頗る其死を惜まれて居る、行年六十二歲

人事消息

永山勇吉氏　磐中第十五回卒業生『平町久保町永山和平氏長子』氏は大藏省に勤務中であつたが此程歸省され酒釀業たる家業に精勵されつゝありと。

阿部岩次氏　磐中十四回『平町四丁目荒物商阿部唯次郎氏長子』氏は先々月來病氣のため宮城病院に入院加療中なるが大分快方に向ひたりといふ。

祝平新報之發展

縣會議員
縣參事會員
鷺　清昇
植田町

祝平新報之發展

平藝妓屋組合

石城郡銀行組合

平町料理屋組合

石城郡第三區小學校長會

平町公私立學校長懇話會

平町一丁目
和久井屋漆器店
電話四〇五番

平町二丁目
御料理天ぷら
越の家
電話三三〇番

平町二丁目
洗張
小松崎本店
電話七七〇番

平町三丁目
大黑屋商店
電話一一六番

平町四丁目
株式會社
百澤商店
電話一二番

平町四丁目
荒物商
伊勢屋
電話四五番

平町
河田梅吉

平町南町
磐城共濟病院
電話六四一番

平町材木町
木材業　所得稅調查委員
櫛田榮太郎
電話二四八番

平町紺屋町
旅館
住吉屋本店
電話一五九番

平町紺屋町
醸造元塩屋
山崎合名會社
電話　營業所一〇番　釀造工場二七番

平久保町
銘酒由良之助醸造元
永山本家
小賣部
電話二〇七番

平町播槌小路
堀江工業株式會社
江口忠一
電話特長五一九番

耳鼻咽喉科
合津醫院
院長　合津重世
平田町　電話五五九番

湯本町
品川白煉瓦株式會社
洲川愛造

湯本町
鈴木屋
自動車部
電話三一番

湯本町
小野藥店

湯本町
新つた樓本店

湯本町
龍倉醫院

湯本町
湯本信用無盡株式會社
電話四七番

湯本町
入山採炭株式會社

江名小學校
校長　鈴木佐忠
主席　遠藤菊次郎

澤渡村下市萱
材木商
菅野源重